

2019年度 家族心理教育フォローアップ(1day)研修会 ～山形で～

この度、家族心理教育の実践を深めることを目指した「フォローアップ研修」を企画しました。

この研修会は、これまで標準版家族心理教育研修会に参加したことのある方はもちろん、まだ研修を受けたことがない方やこれから受講を考えている方、「とにかく家族心理教育について学んでみたい」「家族対応について何か情報を知りたい」という方も大歓迎の研修会です。

心理教育実践の仲間づくり、情報共有の場として、きっとお役にたてると思います。是非お誘い合わせの上、ご参加頂きますよう、お願い申し上げます。

1. 日時：2019年9月1日(日) 10:00～16:30 (受付9:30～)
2. 場所：社会医療法人 二本松会 山形さくら町病院 2F機能回復訓練室(山形市桜町2-75)
*病院駐車場は使用できません。公共交通機関、有料駐車場のご利用をお願いいたします。
*昼食は各自ご用意下さい。
*当日の緊急連絡先は申込が確定したあと、追ってお知らせします。

3. 講師(予定)：永田貴巳、齋藤昇(山形さくら町病院)
榎貴浩(宮城県立精神医療センター)
津久井仁美、大沢 隆(かみのやま病院)
大場よし子、鈴木茂久(小原病院)
研修サポーター(予定)：贅川信幸(日本社会事業大学)

4. 参加対象者：職種・所属機関・経験は一切不問

5. 参加費：1,000円(資料代として)

*当日の受付にてお支払いいただきます。

*お釣りのないようご協力をお願いいたします

*参加費の領収書は希望者のみの発行となります。当日、受付にてお申し出ください。

6. 申し込み方法

別紙の参加申込用紙に必要事項を記入して頂き、FAX(023-647-4268)にて仮申し込みをして頂きます。(申し込みは手続き上、FAXでのみの受付とさせていただきます)

後日、事務局より参加ご案内を郵送にてご連絡いたします。案内を持参の上、当日ご来場ください。

なお、参加ご案内を受取られた時点で、研修を欠席された場合キャンセル料が発生いたします。キャンセル料のお支払いについては後日ご連絡いたします。

参加申込み締め切り：2019年7月31日(水)

7. 申し込み・お問い合わせ(FAXでのみ受付いたします)

〒990-0827 山形県山形市城南町2-4-25

地域活動支援センターおーる内 標準版家族心理教育研修会実行委員会 事務局 担当・高橋

FAX: 023-647-4268

当日の内容(予定)

- ・家族心理教育～総論の入口～
 - ・「まんじゅう理論」をもう一度
 - ・グループ展開のコツ …等
- ↑上記は一例です。できるだけ受講される皆様のニーズにや要望に合った内容にしたいと考えております!

リクエスト・ご質問があれば
ぜひ申込書にご記入ください!!

2019年度 家族心理教育フォローアップ(1day)研修会 ～山形で～

参加申込用紙

フリガナ	
氏名	
勤務先・所属	
職 種	・医師 ・心理士 ・看護師 ・作業療法士 ・精神保健福祉士 ・薬剤師 ・栄養師 ・その他（ ）

連絡先（研修参加関連のご連絡の送り先）	
連絡先区分	自宅 勤務先 その他（ ）
住 所	〒 都・道 府・県
電話番号	FAX
Email	
※実行委員会より、次回以降の研修のご案内を送らせていただく場合がございますので、希望者のみご記入ください	

※差し支えなければ、下記の事項についてもお答えください※

医療機関 (精神科・一般・その他_____)	家族心理教育グループの経験 なし ・ あり 「あり」の方→グループ形式は <small>こうのだい</small> 国府台モデル ・ それ以外のグループ
勤務経験 年 ・ なし	当事者心理教育グループの経験 なし ・ あり 個別での当事者、家族への心理教育の経験 なし ・ あり

【この研修会で知りたいこと、身につけたいこと、取り上げてほしいこと】	☆ご質問もあればご記入下さい

送り先：地域活動支援センターおーる内 標準版家族心理教育研修会実行委員会 事務局 担当・高橋

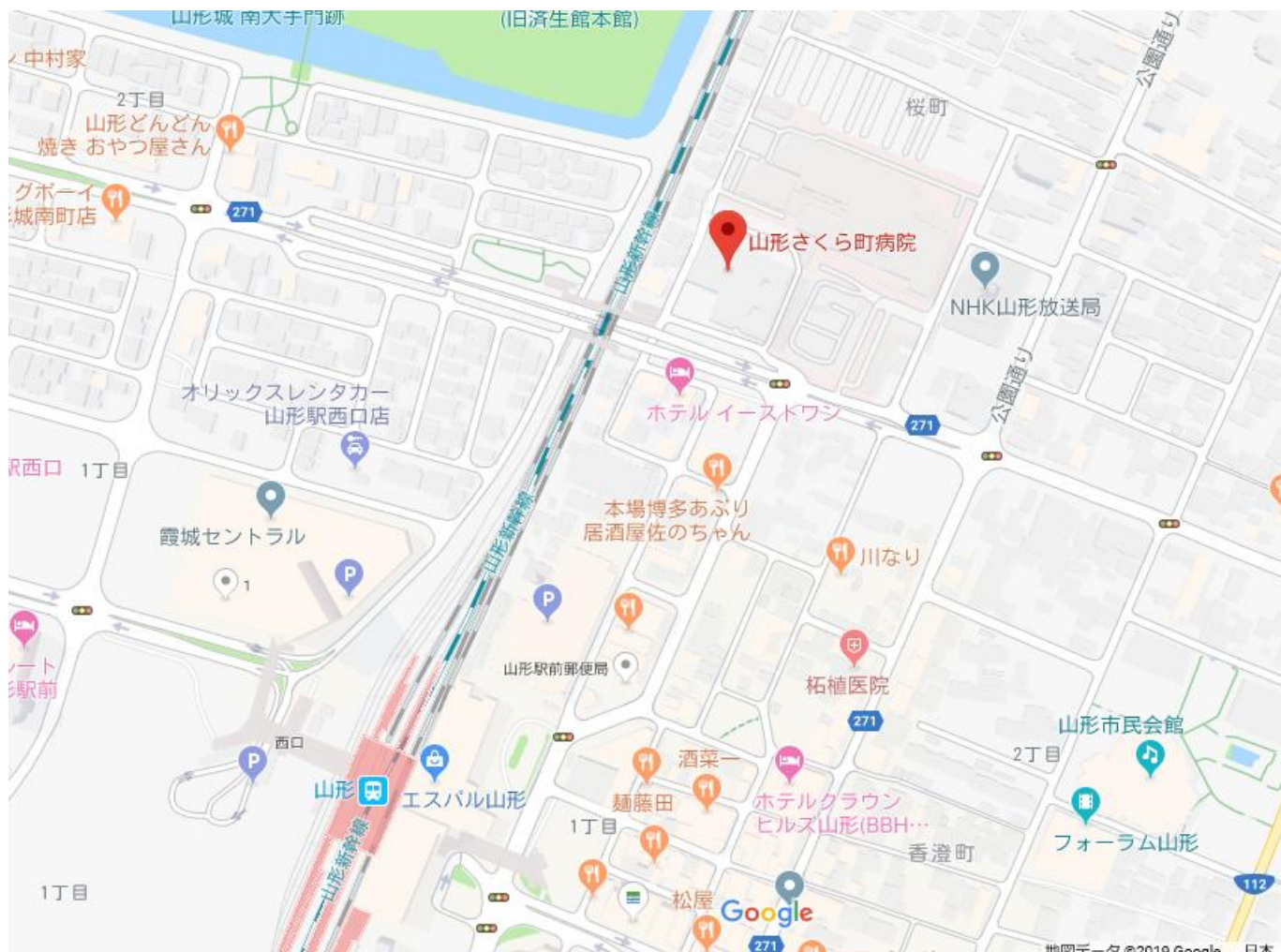
FAX：023-647-4268

会場案内 ※研修会に関するお問い合わせは、会場ではなく事務局へお願いいたします※

住所 山形市桜町2-75 社会医療法人 二本松会 山形さくら町病院 2F 機能回復訓練室

アクセス JR山形駅から徒歩3分・仙台より車で40分、バス・電車で約60分

***病院駐車場は使用できません。公共交通機関、有料駐車場のご利用をお願いいたします。**



【心理教育とは】

「精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、正しい知識や情報を心理面への十分な配慮をしながら伝え、病気や障害の結果もたらされる諸問題・諸困難に対する対処法を習得してもらうことによって、主体的に療養生活を営めるように援助する方法」と定義されています。つまり、病気や障害、そのほかの問題を抱えて、知識もなく、相談もできず、途方にくれているご本人、ご家族に必要な知識や情報を知ってもらう機会を広げ、どう問題に対処するかを協働して考えることで、ご本人やご家族が自分たちの問題に取り組みやすくなり、何とかやっていけるという気持ちを回復する、そういうことを目指している支援法のひとつで実証的効果も確認されています。家族だけで構成された集まりの場合は、家族心理教室とも呼ばれます。

【標準版家族心理教育とは】

家族心理教育を初めて実施する人や、始めてみたけれどあらためて基礎から学びなおしたい人、つまり“初級者”の方々が、家族心理教育の基礎的な知識と実施方法を学ぶための研修会です。この研修会は、主として統合失調症に関する家族心理教育に焦点を当てたもので、心理教育ネットワーク関係者のこれまで積み重ねられた家族心理教育研修会の実践や、専門家としての経験に基づいて、幅広くわが国で行われている研修会の共通部分を取り出したものです。（現在は発達障害、気分障害、糖尿病、AIDS、引きこもり等も対象とされています）国府台モデルを中心とする日本版ツールキットプロジェクト、そして米国版 EBP ツールキットの家族心理教育も参考にしています。（引用：心理教育・家族教室ネットワーク HP より <http://jnpf.net/>）